

大川村ふるさと留学センター運営規則

〔令和7年度版〕

大川村教育委員会

大川村ふるさと留学センター運営規則

1. 保護者の協力

ふるさと留学（山村留学）の重要な目的は、“子どもの自立”にあります。

この目的を達成するために、センターでは

- 1) 自分から行動する
- 2) 耐える
- 3) 自分のことは自分でする
- 4) 他人の立場を大切にする

を指導の柱としています。

この趣旨を実現していくには、保護者の方々の誠実な協力が必要となりますので、以下に挙げる各項についてその意図内容を十分に理解し、留学中の児童生徒（以下、留学生）には、指導員と協力して、適切な指導・助言を与えるよう心掛けて下さい。

- (1) ふるさと留学は、センター方式（寮生活）での集団生活です。また一つの建物で、指導員の指導、管理のもと、男子も女子も一緒に生活する場であることをまず認識してください。
そして、集団生活においては、センターで決められたルールの厳守が非常に重要となります。ルールを守ることができないと、仲間づくりもできませんし、危険が及ぶ場合もあります。一人ひとりが、目的意識をしっかりと持ち、センターのルールに従い、生活が送られるよう心がける必要があります。特に、男女交際、他者への暴力や自傷等の行為がみられる等、集団生活にふさわしくない行為がみられた場合は、状況によっては契約を解除させていただきます。
- (2) ふるさと留学では、欲求不満に対する耐性をつけることを重要な課題として位置づけています。
そのために様々な機会を利用して、欲求が満たされなくても苦痛を感じることなくそれに耐えられる心身を図ることとしています。

－例1－

今日の子どもから欲求不満耐性を奪っている要因として先ず挙げられるものは、金銭の消費環境です。このことを子ども達によく理解させ、留学期間中は基本的には、金銭を使わず、それに耐えてみようという生活目標を持たせます。

－例2－

金銭に準ずるものとして、マンガ・テレビ・ゲーム・携帯電話等が挙げられます。これについても留學生活中はできる限りふれることのないような生活目標を持たせます。

（テレビは一切禁止ではなく、内容や時間の制限を設けます）

－例3－

日用品や服装についても、廉価で質素なものを大切に使うよう指導します。

以上の例からも理解いただけるように、できる限り都市化環境から子ども達の生活を切り離し、子ども達自身がその個性・特性を充分に発露できるような生活環境をつくるのが、欲求不満耐性の育成には必要であると考えています。これには、保護者の理解と協力が極めて必要となります。

- (3) 子どもの日用品はできるだけ少なく必要最低限の量とし、これを大切に繰り返し使えるような配慮が必要です。留學生活中に、子どもから物品の要求があった場合でもこの考えに立って判断するようにして下さい。また、判断に迷うような場合には、必ず指導員に相談するよう心掛けて下さい。特に、服装に関する子どもからの要求については、ファッション性を排し、山村生活にふさわしい、実用と合理、廉価なものに徹するよう配慮、指導して下さい。
- (4) 子ども宛に物品を送ったり、保護者がセンターを訪問したりする場合には、食品に関するものを同封しないようにして下さい。食品等を送る場合は、センター全体を配慮したものとして下さい。
- (5) 保護者の留學地訪問については、センターが定めた日時に行うようにして下さい。但し、個人的な事情により訪問の必要がある場合には、指導員と相談のうえ行うようにして下さい。
- (6) 保護者と留學生の連絡は、郵便葉書又は封書を用いることを原則とします。
子どもからの手紙で気になる事がある場合は必ずセンター長に連絡して下さい。
- (7) ふるさと留學では、センター職員が保護者となります。したがって、学校や地域との諸連絡については、センターを経由することを原則とします。
但し、緊急の場合やセンターの承認を得た場合はこの限りではありません。
- (8) 保護者は、自分の子のみでなく、留學する全ての児童生徒の親であるという認識に立って行動して下さい。
- (9) P T A行事（始業式・作業・運動会・修了式）には、積極的に参加し、交流を図るよう心掛けて下さい。
- (10) 長期休暇に際しては、センター現地での集合解散を原則とします。引率は保護者の責任で行って下さい。また、日時はセンターの年間計画に定められた日とします。
- (11) 学期末に渡される通信簿には必ず目を通し、保護者欄に記入押印して下さい。また、休暇中の宿題は保護者の責任で完成させるようにして下さい。

- (12) 留学生の帰省及びセンターに戻ってきた際、所持品についてはふるさと留学の趣旨に則り、保護者の方がその中身を必ず確認して下さい。尚、旅費として金銭を持たせた場合には、その残額を指導員に渡すよう指導して下さい。
- (13) 子どもの帰省中は子どもとの対話を通し、留学地での心身状態をできるだけ把握するように努めて下さい。もし、いささかでも指導・配慮が必要と感じた場合には、遠慮なく指導員又は教育委員会へ文書または電話にてその旨を伝えて下さい。
- (14) 保護者が留学地を訪問し、宿泊を要する場合は、できるかぎり自然教育センター「白滝」（留学センター同一敷地内宿泊施設）を利用し、センターでの生活の様子を確認いただくとともに、施設の運営に協力下さい。

2. 諸費用

- (1) 毎月の経費は、留学生1人当たり月額50,000円とし、8月を除く11月分を大川村に納付して下さい。
なお、長期休業中は帰省を原則としていますが、8月は学校行事等で滞在が必要な場合もあります。その場合は1日2,000円をご負担下さい。
- (2) 経費は、前月末日までに指定の金融機関に払い込んでください。但し、諸事情によって定められた期日を過ぎる場合には、その理由を大川村教育委員会に届け出てください。
- (3) 年度途中で留学した場合や特別な事情により契約を途中で解除した場合の経費は、滞在日数が15日を超え、1ヵ月に満たない場合は1ヵ月分、15日以下については半月分をご負担いただきます。また、留学生本人若しくは保護者等の病気等特段の事情により帰省する場合も同様とします。
- (4) その他、留学生の就学に要する費用（教材費・学用品等）及び留学生個人の医療費、衣料品費、生活用品、諸行事への参加費、並びに旅費等については、予め一定額を「預かり金」として、保護者から指導員が預かることとし、その管理のもとに支出します。額に不足が生じた場合は適宜連絡を致します。なお、預かり金は個人別台帳にその明細を記帳し、年度末に精算致します。
- (5) 留学生が故意に、学校、センター施設、公共の器物を破損・紛失した場合には、保護者の責任においてその補修や補償を行って下さい。

3. 傷害の補償

大川村は、全国山村留学協会に加盟しており、「全国山村留学協会・短期、長期留学の保険」に留学生全員が加入しています。よって万が一の事故に際しては、この範囲内において補償しますが、各保護者においても、任意の一般傷害保険に加入する等の配慮をお勧めします。

4. 長期ふるさと留学契約書の提出

入所に際しては、指定の契約書に保護者及び連帯保証者が契約内容及び本規則を承諾のうえ、各自直筆で記名押印のうえ提出して下さい。

☆子どもたちからよく見えるところに貼り、次のことを意識しながら生活しています。

センターのルール

一人ひとりの言動でセンターの雰囲気が変わります。
全員が気持ちよくセンター生活を送ることができるように心がけましょう。

◇時間を守る

- ・ホールに張り出しているセンターの生活時間を守るよう意識しましょう

◇気持ちよく生活するための約束

- ・あいさつをする
- ・掃除をきちんとする
- ・部屋でボール遊びやバドミントン等をしない

◇その他

- ・センター以外の場所に勝手に行かない。指導員の目の届く範囲で動く
- ・部屋での飲食禁止
- ・荷物が届いた場合は、指導員のいるところで開封する
- ・原則、親と電話はしない
- ・人を不快にする発言はしない、よく考えて発言をする
- ・部屋の行き来をしない
 - 物がなくなる等トラブルの原因になるのを避けるため
- ・センター生活において不要なものを持ちこまない
- ・部屋にこもらない
- ・ひと、物を大切にする
- ・男女交際の禁止